

マルコによる福音書2章5節 「罪を赦す権威」

1A 病の癒しにまさる罪の赦し

1B 床を担いだ友人たち

2B 中風の者本人

2A 人の子にある権威

1B 神への冒瀆

2B 病の癒し

本文

マルコによる福音書 2 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、先週、マルコ 1 章を読みました。午後に 2 章を一節ずつ読みますが、今朝は 5 節に注目してください。「イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に「子よ、あなたの罪は赦された」と言われた。」

イエス様が宣教の働きをしている中で、多くの病人がイエス様のところにやって来ました。病にかかっている人にしては、全くその通りで、こんな大きな福音、良い知らせはありません。けれども、前回学びましたが、イエス様は別の村や町に行って福音を伝えようと言われました。そう、福音のことばを伝えることこそが、イエス様が来られた使命であり、病を治されるということは、その福音宣教に伴う徴であることを知りました。

1A 病の癒しにまさる罪の赦し

そのような話の流れの中で、2 章にある話につながります。イエス様が、ペテロの家のあるカペナウムに戻ってこられます。そしてある人の家におられることを知れ渡ったので、そこに多くの人たちが集まりました。そこで、イエス様は 2 節を見ますと、「みことばを話しておられた。」とあります。イエス様が言われたように、神のことば、ご自分のことばが主目的です。

しかし、そこに中風の人を床ごと担いできた人たちがいました。中風とは、脳出血などによって半身不随になったりして、体が動かなる病であります。連れて来たのですが、群衆のために近づくことができずにいました。それで彼らはすごいことをやってしまいます。今の家屋ではできないことです。屋根に上がり、屋根を剥がして、穴を開けて、それで寝床ごろ、中風の人をイエス様の前のところに釣り降ろしたのです。当時の家屋の様子を、ナザレで再現されたものを見ましたが、確かに木の梁があって、その上に藁ぶきのような屋根があるので、容易に穴を開けることができます。

このような、ちょっとクレージーな、すごいことをしてくれる人を、困った、迷惑だと思ってしまうがちですが、イエス様は喜んでおられたのでしょう。そこまでして、中風の人イエス様によれば必

ず治ると信じていた、その信仰を見てイエス様が、中風の人に「子よ、あなたの罪は赦された」と言われたのでした。これが、どれほどの良き知らせだったのか、福音だったかを見て行きたいです。

1B 床を担いだ友人たち

まず、この言葉を聞いた、中風の人を運んできた友人たちは、びっくりしたことでしょう。「ちょっと待て！ 私たちは、彼の病が癒されることを願ってここまでして連れて来たのに、「罪は赦された」はないでしょう。また彼が歩けるようになることを願ってのことだったのですよ。」と答えると思います。

けれども、病が治ることと、罪が赦されることでは、どちらがもっと大きな福音でしょうか？ 一時的には、もちろん病が治ることだと思います。病ほど私たちを苦しめるものはないでしょう。そこからどれほど脱却したいかは、どんな時代もどんな人も願うことです。宗教においても、日本にあるもののほとんどが、病を治すためのものです。手かざしをして浄霊をして、健康を取り戻すであるとか、病に関わることです。確かに、病を治すことは良い知らせ、喜ばしい知らせです。そしてイエス様も、確かに病にかかっている人々を治されました。使徒たちも病の人たちをイエスの御名によって立ち上がらせ、教会においても、病の中にいる人は長老たちを呼んで、オリーブ油をぬって祈ってもらうようにしなさいという勧めがあります。

けれども、私たちには完治できない、100%死に至る病を持っています。そうです、誰一人、永遠に生きることができません。どんなに病が治ったとしても、その痛みや苦しみから解放されることはすばらしいけれども、人は元気であっても、必ずいつか死にます。病というのは、いつも死を孕んでいます。それゆえに、病は残酷です。けれども、ある病が完治されたと喜んで、必ず人は死に至ります。そうです、いわゆる病よりもはるかに深刻な病があり、100%死に至らせる病があります。それを、聖書は「罪」と呼んでいます。「ロマ 6:23 罪の報酬は死です。」赤ん坊として生まれた時に、すでにその子はいつか死ななければならない定めにあります。「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている(ヘブル 9:27)」とあります。

実は、病というのは、罪によって死がもたらされていることの、一つの結果にしか過ぎません。天のエルサレムにて、主がすべての呪いを取り除かれた時に、「神は彼らの目から、涙をことごとくぬぐい取ってください。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しきもない。以前のものが過ぎ去ったからである。(黙示 21:4)」とあります。世界の中に死が入ってきたので、あらゆる悲しみが生まれました。叫び声が生まれました。苦しみが生まれました。病もその一つであり、病こそがすべての苦しみの原因ではなく、罪によって死に至るという過程の一つにしか過ぎないのです。病にかかっている人でも、そうでない人でも、この死病については誰もが免れることができません。

主は、アダムに対して、「創世 2:17 善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」と言われました。そして、罪を犯した後に、「3:19 あなたは、顔に汗を

流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」と宣言されました。彼の罪によって、死が世界の中に入り、死が世界を支配するようになったのです。それで創世記から、神の人に対するご計画は、病を癒されることもさることながら、それ以上に、人の罪をどのようにして赦し、取り除くかということを中心にされていたのです。

2B 中風の者本人

ですから、イエス様は中風の人を見て、まず行われたかったのが、「罪を赦す」ことだったのです。おそらく、中風の人本人は、とてつもない安堵の中にいたことでしょう。すべての病は、アダムの罪から来ていますが、病にかかっている人が必ずしも自分自身の罪のゆえにそうになっているわけでは全然ありません。けれども、時には自分の行った愚かな行為によって、一生涯の病や怪我の後遺症の中で苦しむ場合があります。注解書には一部、中風に罹ったのは、梅毒の最も進行した症状だったのでは？というものがあります。つまり、してはいけない性行為によってそのようになったのではないかと推測です。箴言には、不道德な行為を行って、その後で精神的にも、肉体においても悲惨な結果になっていることを嘆いている箇所があります。「箴 5:11-12 そして、あなたの終わりにあなたはうめく。あなたの肉とからだが減びるとき。そのとき、あなたは言う。「ああ、私は訓戒を憎み、私の心は叱責を侮った。」肉とからだが減びたのは、その前後を読むと遊女に自分の身を明け渡したからです。

どんな罪にしても、その罪責感から来る苦しみは、とてつもないものです。例えば、免許取得一年もしないうちに、無謀な運転をして対物によって交通事故、下半身不随のまま一生を過ごしている人がいるかもしれません。なぜ、あの時にあのことを行ってしまったのか・・・と一生後悔してしまいます。また、幼い時にある悪いことをして、幼いので犯罪には定められなかったものの、40 歳ぐらいの中年に入るぐらいになっても、それでも記憶喪失や、生理的な不安定性であるとか、いろいろな症状が出てきます。そのようなことによって、神経症的な行動にも出ます。敢えて、人から嫌な目にあうようなことを、自ら行います。無意識のうちに、罰せられるようなことを敢えて行って、それで人から例えば非難されたり、馬鹿にされたり、しかとされたり、あるいはぶたれたりするかもしれませんが、それは自分の意識深くに、罰せられるように動いてしまうからです。自傷的行為です。

たとい、自分自身にそのようなことをたつた今、思い出せなくとも、そういったことをすれば罰せられるということを分かっている、そしてそのために死んで、死んだ後に裁かれなければいけないのだということを、実は知っているのです。「ロマ 1:32 彼らは、そのような行いをする者たちが死に値するという神の定めを知りながら、自らそれを行っているだけでなく、それを行う者たちに同意もしているのです。」

そのような苦悩の時に、「あなたの罪は赦された」と宣言されることは、なんと安堵することでしょう

うか！この罪意識からの解放こそ、イエス様は病以上に、この男の人に与えたかった良き知らせでした。ダビデも、罪意識に苛むことがありました。バテ・シェバとの姦淫の罪を犯して、それから彼女の夫ウリヤを殺したことによって、それを隠していたのですが、ついに告白して、罪が赦された時の安堵を詩篇で歌っています。「詩 32 篇 1 幸いなことよその背きを赦され罪をおおわれた人は。2 幸いなことよ【主】が咎をお認めにならずその霊に欺きがない人は。3 私が黙っていたとき私の骨は疲れきり私は一日中うめきました。4 昼も夜も御手が私の上に重くのしかかり骨の髄さえ夏の日照りで乾ききったからです。セラ 5 私は自分の罪をあなたに知らせ自分の咎を隠しませんでした。私は言いました。「私の背きを【主】に告白しよう」と。するとあなたは私の罪のとがめを赦してくださいました。セラ」

2A 人の子にある権威

1B 神への冒涇

この罪の赦しの宣言を、律法学者が何人かそこにいて聞いていました。それで、心の中でいろいろ考えていました。「2:7 この人は、なぜこのようなことを言うのか。神を冒涇している。神おひとりのほかに、だれが罪を赦すことができるだろうか。」律法学者の思ったことは、半分正しいのです。後者が当たっています。神以外に、だれも罪を赦すことはできないのです。

罪というのは、神に対して犯すものです。神は、この世界を造られた創造主であるだけでなく、正しい基準も定められた方です。無神論者の人で多くが、「神がこんなに悪いことが起こるのを許されているのであれば、そんな神はいない。」ということを話しますが、ちょっと待て、どうしてそれが悪いことだと判断できるのでしょうか？病にしても、災害にしても、道徳的な悪にしても、それが悪いものだと何を基準にして話しているのでしょうか？そうなのです、創造の事実を否定できないのと同じように、神が正しい基準を人に与えられたことも否定できないのです。

ですから、人に対して罪を犯したとしても、根本は、本質は神に対して罪を犯しています。人を殺しても、「人を殺してはいけない」と定められた神に対して罪を犯しているのです。ダビデが、先に話したバテ・シェバとの姦淫の罪を犯したことを告白した時に、こう言っています。「詩篇 51:4 私はあなたにただあなたの前に罪ある者です。私はあなたの目に悪であることを行いました。ですからあなたが宣告するときあなたは正しくさばくときあなたは清くあられます。」だれかが私に罪を犯して、申し訳ありませんでしたと後で謝りに来ても、私は神の命令にしたがって「はい、赦します」ということはできます。けれども、その人本人が、神に対して赦しを請わないといけません。人はそれぞれが、正しい神に対して申し開きをしなければならないからです。「4:13 神の御前にあらわでない被造物はありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。この神に対して、私たちは申し開きをするのです。」

ですから、誰にも自分のしたことが知られていなくても、自分の良心は呵責を覚えています。また、

相手は別に構わないと思ったとしても、それでも自分が全能者の前に立たなければいけないという恐れがあります。それは罪というのは、人との関係以上に、その正しい基準を造られた神との関係の中で解決するものだからです。だから、神が赦すと言われる時に、本当に赦されるのです。「Iヨハ 1:9 もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」

私が思い出すのは、牧者チャック・スミスが、召天する直前の 2013 年 6 月だったでしょうか、牧師会議にて、彼の話した言葉でした。サルデイスの教会の勝利を得る者に対するイエス様の言葉で、「またわたしは、その者の名をいのちの書から決して消しはしない。わたしはその名を、わたしの父の御前と御使いたちの前で言い表す。(黙示 3:5)」との言葉から、自分の死期が近づいているのをかなり意識して、それでも死後に主の前に立てるのかどうか？ということ、つまり自分の罪意識を感じたのでしょうか。しかし、涙を流しながら、主の前に立つのは、めちゃくちゃな自分の行いではなく、キリストの正しい行いによるものであり、この方の義が自分に着せられたからだ、ということを話していました。パウロの映画も見ましたが、自分が若い時に迫害して、殺害させたキリスト者たちのことが、夢の中にまで出てきて良心の呵責を覚えていたけれども、自分自身が処刑されるにあたって、天においてそのキリスト者たちがパウロに喜んで会いに行く場面が最後に出できます。神のみが罪を赦すことができにありません。

2B 病の癒し

けれども、律法学者たちの間違ったのは、前半です。「神を冒瀆している。」とのこと。イエスが、単なる人であるならば、それは神を確かに冒瀆しています。けれども、神からの方であれば、どうでしょうか？イエス様はこう言われました。「2:9-10 中風の人に『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて、寝床をたたんで歩け』と言うのと、どちらが易しいか。しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るために——。」

あなたの罪は赦された、というのと、起きて寝床をたたんで歩けというのはどちらが、易しいでしょうか？もちろん、罪は赦された、ですね。罪が赦されたということは、目に見えないことから、証明できるものではありません。なので、勝手に罪が赦されたと宣言しても、それが本当にそうなのかどうか、でっち上げることもできます。けれども、寝床から起きて、たたんで歩けというのは、その力がなければ、すぐに目の前でばれてしまいます。実際は、罪を赦すことは神にしかできないのですから、ある意味で罪を赦すほうが難しいのですが、けれども、人が認める形では、病をいやすことのほうが、ずっと難しいです。そこで、イエス様は、彼をすぐさま、寝床から起き上がらせたのです。

このように目に見える形で、確かに罪を赦す権威がご自身にあり、ご自身が神から来た方であり、神の御子であることを示しておられます。もし罪の赦しが、ただ口だけののであれば、それは単

なる気休めです。けれども、目に見える形でその権威があることを示すなら、確かにこの方が神からの方であり、そして私たちの罪を確かに赦すことができるのだということが分かります。事実、主は私たちの罪を赦してくださるのです！

それで、中風の人を寝床から起き上がらせるのではなく、なんと自分自身が死者の中から起き上がることを宣言され、実際にそうなさいました。イエス様が宮清めを行われて、「こんなことをするからには、どんなしるしを見せてくれるのか。」と問い質された時に、イエス様はこう言われました。「ヨハ 2:19 イこの神殿を壊してみなさい。わたしは、三日でそれをよみがえらせる。」この神殿とは、ご自分の体のことで、死者の中から甦ることを意味しておられました。そうです、イエスご自身が死者の中から起き上がることによって、確かにこの方に罪を赦す権威が与えられていることが証明されたのです。

私たちが、どんなに自分が罪深いと感じていても、それでもイエス様は、罪を告白する人にはすべての罪を赦されます。けれども、それは気休めに聞こえるかもしれない、特に自分の犯した罪の重さを思うならば、気休めに聞こえるかもしれません。けれども、違います。死者の中から甦られた方が、「あなたの罪は赦された」と宣言するのです。私が信仰のまだ若かった時、大学生でしたが、大学祭で留学生のクリスチャンのサークルの方が、ジーザスの映画を上映していました。ほとんど人がいなかったのですが、私だけがおいおい、涙を流していました。十字架では泣きませんでした。ただ苦しみ悶えるイエス様、でもそれが自分の罪のためであることは知っています。それでも、心は重かったです。ところが、三日目に甦られたイエス様に出会う弟子たちの姿を見た時に、涙があふれてとまりませんでした。確かに、イエス様は私の罪をご自分の死とともに葬り去ってくださったのだ。もはや、罪は思い出されないのだ、罪から来る死に勝利されたのだ、と確信したからです。

皆さんはいかがでしょう？「あなたの罪は赦された」という宣言を聞いたことはございますでしょうか？そして、その確証を得ているのでしょうか？そして、この罪の赦しこそが、人生最大の良き知らせであること知り得たでしょうか？